

国語シリーズ66

作文教育における評価

国語表現法の教育

文化庁

国語シリーズ66

作文教育における評価

国語表現法の教育

文化庁

刊行の趣旨

国語シリーズは、国語の改善と国語教育の振興に関する施策を普及徹底するために編集するものです。

このシリーズは国語問題編・国語教育編・国語生活編・国語教養編および資料編に分け、問題編は主として国語審議会の発表した事項を、教育編は国語学習に関する事項を、生活編は国民の言語生活に関する事項を解説するものであり、教養編は一般の国語教養を高めることを、資料編は国語改善と国語教育に関する基礎資料を収録することを目的としたものです。

すでに問題編は13冊、教育編は15冊、生活編は5冊、教養編は11冊、および資料編は21冊を刊行しましたが、各編にわたって今後もひきつづき刊行する予定です。

この本は、教育編の16冊目として、「作文教育における評価」について、東京教育大学教授倉沢栄吉氏に、また、「国語表現法の教育」について、広島大学教授藤原与一氏に執筆を依頼したものです。

昭和45年3月10日

文化庁文化部国語課長

国 松 治 男

目 次

作文教育における評価

第1章 作文経験 — 書くということはどういうことか —	1
1 原経験	1
(1) 表現	1
(2) 想の展開	4
(3) 比喩性	5
(4) 児童文の創造性	8
2 想について	12
(1) 発想	12
(2) 構想	15
第2章 作文教育の諸問題	18
1 概観	18
2 評価の問題	36
第3章 作文の評価	47
1 学習者のための評価	47

2	評価の観点	52
3	作文の種類 — 言語理論的に —	54
4	作品の評価	65
	(1) 測定・評価・処理	65
	(2) 想に即して	70
第4章 作文評価の実際		74
1	正・適・豊	74
2	統一・連関・強調	79
	(1) 文	84
	(2) 品詞	87
	(3) 語い	93
	(4) 連関	94
3	まとめ — 分析評価の1例 —	96

国語表現法の教育

第1章 国語表現法 — なぜ、国語表現法という言い方を をするか —		105
1	ことば	105
2	ことばには表現法がある	105
3	国語表現法	107

第2章 国語表現法教育の重要性 — 人間の教育のためには、国語表現法の教育が重要である —	109
1 人間は表現者	109
2 ものを言わせよう、述べさせよう	110
3 被教育者たちの現実〈国語表現法の教育を、重視しよう。〉	111
第3章 一般の言語表現の生活の実情 — 国民の国語生活の中にある表現生活のあいまいさを、少しながめてみる —	114
1 考えない表現生活	114
2 変な表現法	114
3 “そういちいち、堅苦しく考えなくても”	119
4 ことばを解剖する心構え	120
第4章 表現法の教育 — その根本の筋道を考えてみる —	122
1 根本の筋道	122
2 理に従っていく	123
3 情を重んじる	126
4 表現をくふうする	127
5 表現法の教育のために	130

第5章	学校「文法教育」の改善 — 3か年にあてて、 案を立ててみる —	131
1	改善	131
2	わたくしの改善案	132
第6章	音声面からの国語表現法教育 — 国語表現法 の教育は、音声のがわからずとも考えられる —	159
1	音声表現法	159
2	抑揚, その他	159
3	個々の音	160
第7章	方言の見地 — 方言の見地からも、国語表現法 の教育を考える —	162
1	国語表現法と方言	162
2	国語表現法の教育のために	162
3	方言の表現法	163
4	共通語批判の心構まえ	170
第8章	人間教育, 創造性の教育 — 国語表現法の教 育は、人間教育である。人間の、創造性の教育 である —	172
第9章	国語表現法の開拓 — 前向きの人間教育のため	

には, さらに, 国語表現法を開拓させることも, 考えなくてはならない —	173
1 国語は動く	173
2 国語表現法を開拓する	174
3 開拓させる	176
むすび	178